

3. 共催・協力企画展

「ゴジラの時代」展

会 場 グランシップ 6 階・展示ギャラリー
会 期 2004 年 3 月 13 日～4 月 4 日
主 催 財団法人静岡県文化財団、読売新聞東京本社
共 催 静岡第一テレビ、N-MIX
企画・監修 川崎市岡本太郎美術館
入場者数 9,223 人



チラシ

[開催趣旨]

誕生以来、時代の移り変わりを反映してきた映画「ゴジラ」を扱った展覧会。造形物、撮影セット、台本、ポスター等の「ゴジラ」の映画資料とともに、戦後の時代背景を紹介する写真や映像資料等を展示し、ゴジラとともに当時の時代背景も紹介した。

ゴジラの時代展

会 場 郡山市美術館
会 期 2004 年 7 月 17 日～8 月 29 日
主 催 ゴジラの時代展郡山実行委員会、郡山市美術館、
TUFテレビビュー福島
協 力 東宝株式会社、株式会社東宝映画美術、株式会社円谷プロダクシ
ョン、円谷英二プロジェクト、有限会社ヴィショップ、西村祐次
(M1号)、都立第五福竜丸展示館、川崎市市民ミュージアム、
ゴジラ足跡プロジェクト(今井紀彰、前田道路株式会社)
特別協力 酒井ゆうじ(酒井ゆうじ造形工房)
企画・監修 川崎市岡本太郎美術館
入場者数 21,255 人



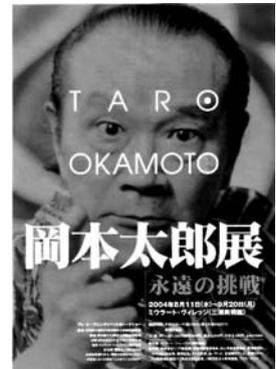
チラシ

[開催趣旨]

戦後から現在に至る時代を通して、「ゴジラ」が社会の中でどのような変貌を遂げてきたのかを振り返るとともに、ゴジラ映画の魅力と日本人独特の怪獣の造形美を、シナリオ台本、関連ポスター、撮影用ゴジラ、特撮技術に使用された造形模型に映像を交え、さらに特撮監督として活躍した福島県須賀川市出身の円谷英二にもスポットを当てながら紹介した。

岡本太郎展 永遠の挑戦

会 場 ミウラート・ヴィレッジ（三浦美術館）
会 期 2004 年 8 月 11 日～9 月 20 日
主 催 株式会社ミウラ
後 援 愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、愛媛新聞社、NHK 松山放送局、
テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛
企画協力 岡本太郎記念館、川崎市岡本太郎美術館、プロモ・アルテ
入場者数 11,155 人



チラシ

[開催趣旨]

政治、経済、教育など、様々な面で行きづまりをみせているこの時代そしてこの日本。一人の人間として生き、日本を挑発し、挑戦し続けた岡本太郎の姿を、彼の言葉と作品で紹介した。

“日本人はすごい” 写真家 太郎と洋之助 展

会 場 六本木ヒルズ・ハリウッドプラザ5F「ハリウッドホール」
会 期 2005 年 2 月 18 日～27 日
主 催 “日本人はすごい” 写真家 太郎と洋之助展・実行委員会、三浦写真工房
協 力 秋田魁新報社、朝日新聞社、岩波書店、ヴーヴ・クリコ ジャパン、NHK、岡本太郎記念館、オリンパス イメージング株式会社、川崎市岡本太郎美術館、株式会社日本飛行船、株式会社タカラ、株式会社デルフィス、講談社、国書刊行会、産経新聞社、JCII フォトサロン、m.natori design、筑摩書房、特種製紙株式会社、メイ牛山ハリウッドグループ、森ビル株式会社



チラシ

[開催趣旨]

(展覧会チラシから)

二人とも東京生まれ。二人とも慶応幼稚舎からの同級生。二人とも 18 才でヨーロッパに遊学。二人ともヨーロッパで一目置かれ、二人ともヒトラーに追い出されて日本に帰り、二人とも古くて頭の固い日本と闘った。太郎は日本の画家に嫌われ、洋之助は日本の写真家に嫌われた。でも二人ともよく食べ、よく笑い、よくしゃべって陰口なんか気にしなかった。

切っても切れない奇縁の糸で結ばれていた太郎と洋之助、知ってる人も知らない人も、この写真展で新しい二人に出会って欲しい。

岡本太郎—明日の神話

会 場 枚方市民ギャラリー
会 期 2005 年 2 月 25 日～3 月 9 日
主 催 枚方市、枚方市教育委員会
入場者数 2,312 人



チラシ

[開催趣旨]

2003 年秋、かつて岡本太郎が制作した幻の大壁画「明日の神話」を発見、というニュースは大きな話題となった。作品の凄まじい迫力とともに、「原爆に焼かれる人間がその原爆をあざ笑うかのように、生きる希望そして人間としての尊厳と誇りを持って美しく燃え上がっている」という制作意図は、岡本太郎の前向きで決してへこたれることのない、桁外れなスケールの平和哲学を伝えている。この展覧会では、「太陽の塔」と並んで最高傑作のひとつと言われる、長さ 11 メートルに及ぶこの「明日の神話」の原画を公開し、不穏な空気が膨らむ一方の世界情勢において現在わたしたちが最も必要とする真の平和へのメッセージを紹介した。

タイムスリップ昭和展 ～Expo' 70 とその時代

会 場 新宿タカシマヤ 10 階催事場
会 期 2005 年 4 月 27 日～5 月 9 日
主 催 タイムスリップ昭和展実行委員会
入場者数 40,815 人



チラシ

[開催趣旨]

「愛・地球博(愛知万博)」の開催にあわせ、1970 年に開催された大阪万博と当時を再現する展覧会として開催した。